



篠山東雲高等学校

岸部健司校長
生徒数 73人
住所 福住1260
☎557-0039

オープンハイスクール
のお知らせ

8月4日(水)



篠山東雲高等学校

未来の農業を担う人材育成

篠山東雲高校は、農業に特化したカリキュラムで、農業に関するさまざまな研究や実験を行いながら学ぶ、実践教育に優れた学校です。
2年生からは、未来の農業を担うスペシャリストの育成のため、「アグリサービス」(草花・飼育)をはじめ、「アグリプロダクト」(作物・野菜や、フードインスティテュート(食品加工・研究)の3つの類型に分かれ、それぞれ専門的に学んでいます。中でも、生徒たちが栽培・収穫した酒米を地元の酒造会社と連携して清酒づくりに取り組んだ「日本酒プロジェクト」は、他の高校ではなかなか経験できない貴重な教育活動です。
また、農業高校には第2の生徒会組織ともいえる「農業クラブ」があります。主な活動は、日ごろの活動成果を発表する「農業鑑定競技」や「意見発表競技」などの各種大会への出場、校内予選→県大会→近畿大会を勝ち抜き、全国大会に出場でき、同校では、毎年優秀な成績を収めています。

もうでよ!わが校へ

在校生が語る東雲高校の魅力

進学した理由は?

- ・専門性が高く、幅広い分野で農業を学ぶことから選択しました。
- ・将来、好きな農業をするために、農業に力を入れている東雲しかないと思いました。

東雲高校で何ができますか?

- ・研究発表が多く、自分で課題を見つけて研究ができます。昨年の研究として、「トマトの甘味をどうすれば増すことができるか」「特産品を使ったスイーツづくり」などがあります。

東雲高校の魅力は?

- ・同級生同士、先輩後輩、みんな仲が良く、昼休みには、先輩と後輩が一緒にご飯を食べています。生徒と先生の距離もすごく近く、何でも相談することができます。
- ・農業系の大学に進学する場合、大学で学ぶことをすでに高校で習っていて、すぐに研究が始まります。農業系の大学に行く場合はおすすめです。

2年アグリプロダクト類型 さん

2年アグリプロダクト類型 さん

特集 ①



丹波篠山の高校へ行こう

- 市内3高校の魅力や特色 -



市内には、「篠山鳳鳴高等学校」「篠山産業高等学校」「篠山東雲高等学校」の3つの県立高校があります。それぞれの学校が特色をもち、生徒たちは夢の実現に向かって充実した高校生活を送っています。

しかし、少子化が進む中、中学校の生徒数は減少し、市内3校への進学率も減少しています。

そのような中、中学生に市内の3高校に目を向けていただこうと、高校・中学校が協議を行い、市教育委員会が「丹波篠山の高校へ行こう」と銘打って、取り組みを進めています。

今月号では、その取り組みの内容や、市内3高校の魅力や特色を紹介します。

問い合わせ 学校教育課
☎552・5653

市内の3高校にはそれぞれ特色のある独自の教育目標を掲げ、進学や就職と生徒の夢の実現に向けて、市外の高校に負けない充実した指導体制を採られています。
しかし、少子化の影響で生徒数が減少する中、市内3校への進学率も54.5%(令和2年度)と年々減少。市内高校における入学者数が募集定員を大幅に割り込む事態が発生しています。
そこで、市教育委員会では、市内で安心して高等学校教育を受けられる環境を守るため、高校・中学校と協議し、「丹波篠山の高校へ行こう2022」キャンペーンを実施。6月28日から7月2日まで、市内3高校の先生が、中学生たちに高校の実態や高校生活の様子を紹介しました。
7月下旬からはオープンハイスクールがあります。今後も、高校・中学校・市・市教育委員会が連携し、アイデアを出し合いながら、市内3高校への関心を高めていきたいと考えています。

広報「丹波篠山」
8月号